２．事業の概要と成果	
（１）プロジェクト目標の達成度	計画通り進捗している。 当会が実施する職業能力アセスメントを経て５名の新規の知的障がい者がIDA（知的障がい者がセンター）から就労に移行、１３名の新規知的障がい者が地域から移行、２３名が昨年度より引き続き、当会の職業訓練に通っている。IDAから上記の通り総計４１名が職業訓練に移行し、カフェ・製菓、農業、清掃、クラフト４つの活動を通して就労または収入向上活動に従事できている。知的障害者の職業訓練や就労を支えるジョブコーチも14名育成された。また　重度、重複知的障害含む知的障害者への生活支援（ラオス人指導員のOJT）も継続してセンターで行っており、就労に移行していない５歳から３０歳の全６４名の知的障害児・者（新規の通所知的障害者２８名含む）及びセンターの７名のラオス人指導員に対して支援方法の指導やアドバイスを常時行い、個別支援計画に基づく各知的障がい者・児のニーズに即した支援をアセスメントを通じてラオス人指導者がしっかりと提供できるようになってきている。またセンターに通所する１５歳以下の障がい児を近隣のインクルーシブ校へ移行するための支援も行っている。
（２）事業内容	２０１８年２月 ・知的障害者センター利用者に対する生活支援トレーニング（OJT）モニタリング実施、知的障害者センターに在籍する１６歳以上の通所者全員３１名に対するADL達成調査、職能アセスメントの実施 ・第１回ラオス人指導員(以下ジョブコーチ)育成研修実施 ジョブコーチの募集を行い、７日間にわたる４業種育成研修を実施。 ・OJTを経て知的障がい者センターから移行可能な新規知的障がい者訓練生を受け入れ開始。新たに１２人の訓練生が加わり、各職能アセスメントや当事者インタビューを経て研修生を４つの職業訓練に配置し職業訓練を開始。総合計２２名の知的障がい者（軽度中度含む）訓練性登録。 ・クラフト研修ではアロマ製品を製作するための基礎訓練を実施。ボトルの中にリキッドを正確に測りながら丁寧に入れ込む作業。丸い直径４センチの小さな器に練り物を丁寧に入れる作業等本製品開発の前の反復基礎訓練を実施。集中力と丁寧さが必要となる作業のためクラフトグループの職業能力適性に見合う職能の高い訓練生メンバーを選抜した。また別途「Ｃｏｉ」より縫製の仕事の依頼を頂き、布の両端を縫う仕事を受注した。最初は目が粗かったりまっすぐに縫えていないためやり直しが多く出ていたが、反復練習を繰り返し、現在やり直しは全く出ない。特に自閉症の研修生が特にこの作業には適しており、細かな作業であるが、縫製のスピードはどんどんあがり、仕上がりも依頼主よりお褒めの言葉を頂いている（訓練生５名）。 ２０１８年３月 ・第２回ラオス人指導員（ジョブコーチ）育成研修実施 ・各職業訓練チームの反復訓練実施。清掃、農業、クラフト、カフェ接客製菓チームの継続的な訓練実施。 ２０１８年４月 ・企業「Ｌａｏｄｉ」より特別注文受注（焼き菓子・カフェ） ・企業への清掃開始（日系旅行会社週２回） ・清掃反復練習　４月２６日/５月１７日 ・農業で６０種類の野菜を育てすでに５種類のハーブ、空心菜、パク

	チー等が収穫・販売開始。 ２０１８年６月 ・個別支援計画の作成 それぞれの活動に振り分けられた訓練生に対して担当するジョブコーチ各人が、「日常生活」、「対人関係」、「行動・態度」の現在の状況をアセスメントし通所訓練生の現状を理解。親とも丁寧に話し合い、その上で全訓練生の個々のニーズに対応した長期目標･短期目標を設定し、適切な支援に繋げるため具体的な支援方法を示した。 ２０１８年７月 ・訓練生の活動が半年が経過したため、訓練生の職業訓練に対する職業能力評価、個別支援計画の見直しを実施。ジョブコーチ１人１人が自分の担当する訓練生に対して評価をし、その後グループで話し合いまとめを行った。 ２０１８年８月、２０１９年１月 カフェ運営専門家による製菓作り・Minnna no Cafe での就労状況の視察及びアドバイス、農業専門家による農作物の育て方、知的障がい者への指導法、オーガニック農法の指導について、ジョブコーチに対しての指導・アドバイスを得た。ＩＤＡ（知的障がい者センター）にて支援員への支援方法の助言やアドバイス、センターで行えるアクティビティの紹介と実践を行った。またラオス人指導員がコミュニケーション研修実施、また職能アセスメントシートを取り入れた日本の授産所（B 型、A 型の障害者就労支援プログラムを導入している福祉作業所の実際のアセスメント方法を参考）も活用し、職業能力適性アセスメントもセンターの就労予備軍の知的障がい者 18 人､現就労に従事する知的障がい者２２名に実施、個別支援計画を元に再度仕事と職能のマッチングを細かく調査し、仕事と適応するためのアセスメントを再度実施、現行の職業種別とのマッチングは８５％とラオス人アセスメントの成果も充分に発揮されており、さらに定期的なモニタリングを行うことで職業能力適性に合った就労の紹介もさらに可能になる予定である。 ・ジョブコーチ育成研修（第３回）２０１９年１月 新人２名のジョブコーチに対しての育成研修を実施。知的障がいの種類や特性などの基礎知識から、支援方法、知的障がい者模擬体験などを通して知的障がいに対する理解を深め、適切な支援に繋げることを目的としている。 ・知的障がい者調査 ビエンチャン県ポンホーン郡２０１８年８月１３日～８月１６日 ビエンチャン県バンビエン郡２０１８年１２月２４日～１２月２６日 ビエンチャン県における障がい者調査を実施。県のＬＤＰＡ（ラオス障がい者協会）及び郡の労働社会福祉局との協力により知的障がい者の事情調査を行った。どの地域でも共通しているのは、１人で生活できるようになって欲しい、働いて欲しい、勉強して欲しいという親の説絶な希望である。 ２０１８年８月 ・カネリョウ海藻株式会社クラフト研修（クラフト専門家） 日本の熊本の会社であるカネリョウ海藻株式会社をクラフト専門家か

	ら紹介され、顧客へのアメニティとして、海藻を使ったしおりの配布を行っていきたいというニーズにより、当会にてしおり作りを行うこととなり指導を受けた。 ・クラフト専門家によるクラフトワークショップ 当会のソーシャルビジネス部門であるマルシェドラオに卸すためのアロマ製品作りのためのワークショップを実施した。 ２０１８年１１月 ・清掃専門家による清掃ワークショップ 清掃状況の確認及び技術指導を受けた。顧客であるAPEX㈱の清掃指導も受け、新たに就労として始まる予定であるベッドメイキングの技術も新たに学んだ。 ２０１８年１２月 ・PIN TOKYO PLAZA清掃 ２０１８年１２月６日に行われた天皇誕生日レセプションにて今回もブース出展の機会を頂き当会の活動をPRさせて頂いたところ、日本食や日本製品を取り扱うPIN TOKYO PLAZA様より店舗の年末大掃除の依頼を頂き清掃を行った。 ●定期的な活動 ・スタッフ・ジョブコーチ育成ミーティング 毎月１回実施。 当会に通所している訓練生各々の現状確認、成長した点や注意点などの支援に当たって必要な情報の共有を主に行っている。 当会PMより日本の障がい者就労の現状や支援方法についても学び、視野や見聞を広げることによりジョブコーチとしてのスキル向上に繋げていく。 ・日中生活支援（職業体験及びアクティビティ） 対象者：ＩＤＡ（知的障がい者センター）生徒　毎月２回実施 ＩＤＡの生徒を対象に当会にて日中生活支援を行っている。まだ就労に結びついていない生徒に対しては、働くことを模擬体験する場としている。児童に対しては、正しい手の洗い方、身だしなみ、自己紹介など、日常生活において必要なことやサッカーアクティビティを通して日常生活の充実に繋げている。 ・親の会実施 毎月１回実施。 当会からの報告を中心に、知的障がい者センターからの活動報告も行っている。保護者からの報告の機会も設け、「ADDP・知的障がい者センター・親」三者の協力体制を作り上げている。
（３）達成された成果	**１．知的障害者への生活支援** 比較的軽度の障害で就労移行済また就労が可能な待機組の総勢５１名の知的障害者への職業能力アセスメントを実施した結果、９０％が水準以上の能力を発揮できている。教育から排除されてきた知的障がい者訓練生たちは、自分の名前すら書くことができない人もいた。当会では、職業訓練に加え就労にあたり必要になってくる基礎的な教育や知識の習得を行っている。これはＳＤＧｓ目標４「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」という視点から有

	益である。 **２．職業訓練・就労支援の実施** ４種の職業訓練を通して総計４１名の知的障がい者が収入を得るため就労し、１４名のジョブコーチが育成された。 訓練生それぞれに大きな成長がみられる。仕事を把握し指示なく動けるようになった、自分の名前が書けるようになった、自分の思いを言葉で表現できるようになった、笑顔が増えて明るくなった、家事を手伝うようになったなど、就労を通して能力面だけでなく精神面での大きな成長がみられ、両親からも喜びの声が届いている。今まで社会から排除されていた知的障がい者が職業訓練を通じ生涯学習の機会を得ることができ、就労を通して収入を得ることによって自立した生活へと繋がり、一人ひとりにあった支援を受けながら働き甲斐のある雇用へと繋がっており、知的障がい者の初のディーセントワークを促進する事業として、以下の目標にリンクしている。 ＳＤＧｓ目標１　２０３０ 年までに、現在 １ 日１．２５ ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる ＳＤＧｓ目標４　すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する ＳＤＧｓ目標８　「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」という **３．ビエンチャン市・県への知的障害者事情調査** ビエンチャン県の知的障がい者調査を行った。授業についていけないから、同級生のいじめにより通学を止めたなど障害があることが理由で本人の希望に反して教育から排除されている障がい児が多くいる。学校への復帰を望んでいる調査対象者２名が、調査後に現地ＬＤＰＡと労働社会福祉局の働きかけにより学校への復帰へと繋がった。 調査時の様子を掲載したFaceBookのアクセス数は７０９人であり、多くの人への情報発信へと繋がった。 **４．近隣村やサポート企業の増加、ラオス社会への知的障害者理解醸成のための啓発イベントの実施** 〇外部販売 ・ジャパンフェスティバル　ブース出展　２月 ・ラオファッションウィーク　２０１８年９月１０日～１４日 お菓子の販売に加え、知的障がい者訓練生がモデルとなり、プロモデルたちと一緒にランウェイを歩いた（９月１４日）。堂々とランウェイを歩く姿に観客からは大きな拍手をもらい、多くの人々の心を魅了した。 ・日立造船株式会社主催LAO GREENTECH CONTEST ブース出展 ２０１８年１１月１７日 ・Waku Waku Toun Theng Market ブース出展 ２０１８年１１月２３日 〇清掃 ・企業への清掃開始　２０１８年４月～ 旅行会社ＡＰＥＸ㈱へ週に３回オフィス内の清掃の仕事をすることが決まった。一般就労が始まった。 ・清掃反復練習　２０１８年４月２６日/５月１７日 ビエンチャン特別市教育スポーツ局事務所清掃

	・PIN TOKYO PLAZA 清掃　２０１８年１２月２８日、２０１９年１月２日 店舗内の年末清掃の依頼を受け、清掃活動を行った
（４）持続発展性	事業に係るカフェ就労や農園、クラフト作業所以外でも清掃では２０１９年２月より知的障がい者２名のホテル就労が決まり、一般就労移行の成果が出ている。 今年度より始まった旅行会社での清掃活動に加え、他社からの新規依頼も受けられるようになりプロジェクトによる活動成果は少しずつ形になっている。 また、当会ソーシャルビジネス部門のマルシェドラオ（ＭＤＬ）において事業確立、持続可能なビジネスの立ち上げを目指している。クラフトチームではＭＤＬに卸すためのアロマ製品、ランチョンマット、縫製製品作りに取り組み、またみんなのカフェでは知的障がい者が給仕や焼き菓子づくりに励んでいる。現在総売り上げを月間で 7500 ドルを目指して多くの知的障がい者が裨益するように事業を進めている。 知的障がい者の一般就労移行による雇用促進に加え、当会でのソーシャルビジネス部門においての雇用促進と仕事の提供を今後も継続して行っていく。 また今後とも様々なイベントへの参加や販売での交流を通して、ラオス社会に、またラオス企業に対し知的障がい者が受け入れられるよう啓発を行っていき、また一般就労へも知的障害者を繋いでいく。